



上ノ日本ワインコンクール2023で金賞を受賞した「鶴沼ケルナー2021」(右)と銀賞を受賞した鶴沼ミユスカ2021(左)。ケルナーやミユスカと言ふ品種は、厳しい気候条件である北海道の気候風土にマッチし、日本国内では鶴沼ワイナリーで最も多く安定して栽培されています。左ノ「ゲヴェルトツラミネール」が根付はじめた1980年当時は、すべてが試行錯誤の連続で、不可能から可能に果敢に挑戦し続けた結果のうえに現在がある」と語る齋藤農場長。

**空知、そして北海道のワイン振興に貢献**

北海道ワイン(株)の社是に「北海道ワインは北海道に必要な会社となります。感謝と誠実を心に」という一文があります。この言葉に感銘を受けた齋藤農場長は、「社是を信条に自分の会社だけが良いということではなく、北海道にあって良かったという会社になりたい」という想いの元、空知はもとより北海道のワイン振興に積極的に取り組んでいます。

例えば、既に空知管内でワイン造りに携わっている方々の栽培技術などの底上げ及びコミュニティの構築を目的とした事業「空知ワインアカデミー」では、YAMAZAKI WINEERYの山崎太地さんとともに講師を担当し、空知の生産者を牽引しています。



## ブドウと共に100年、200年と歴史をつなぎます

**鶴沼ワイナリー**  
Tsurunuma Winery

**鶴** 沼ワイナリーは、北海道小樽市に本社を構える北海道ワイン(株)の直轄農場です。初代社長の嵩村彰禧氏がブドウ栽培の適地を探す中、浦臼町を訪れた際、石狩川沿いの丘陵地の風景がドイツのライン川沿いのブドウ畑と重なり、1971年、この鶴沼に11haの土地を取得したことがはじまりです。約50年の時を経て総敷地面積447haの日本で最も広いブドウ畑となり、常時40名を超えるスタッフ40を超える品種を育て、北海道ワインで醸造しています。

2代目の農場長、齋藤浩司さんは、「今、この豊かな土で栽培できるのは、先輩方が土づくりに心血を注いでくれたお陰。試験品種を輸入したり、土壌や気象などのデータを蓄積するなど、ブドウと共にチャレンジすることが、歴史を繋ぐための礎となつてほしい」と語ります。

広大な土地があるからこそ、品種の個性を生かせる場所でブドウを育てられ、白ははつらつとした酸を、赤は果実味を感じるワインに仕上げられています。

**有限会社 鶴沼ワイナリー**  
北海道ワイン(株)直轄農場

〒北海道樺戸郡浦臼町字於礼内428-17  
☎ 9:00~16:00  
(冬期は営業時間に変動有)

☎ 0125-68-2646  
☎ 0125-68-2086

✉ otoiawase@hokkaidowine.com  
🌐 https://www.hokkaidowine.com/



**WINERY DATA**

畑の見学 SHOP 試飲

- 主な栽培品種：ゲヴェルトツラミネール、ミュラー・トゥルガウ、ピノ・ブラン(ヴァイスブルグンダー)、ケルナー、ミユスカ、シャルドネ、パックス、リースリング、ピノ・グリ、ツヴァイゲルト、レンベルガー、ロンド、MH・AM、ピノ・ノワール、トロリンガー、他
- 生産本数：約250万本/年(鶴沼シリーズ約5万本/年)
- 栽培面積：447ha(総面積)114ha(栽培・管理面積)
- ファーストヴィンテージ：1979年
- ラインナップ：鶴沼ゲヴェルトツラミネール/750ml  
鶴沼ピノ・ブラン/750ml、鶴沼ロンド/750ml
- 購入方法：ワイナリー直営SHOP・自社ウェブサイト

<鶴沼ケルナー/750ml>